

【樹木の部屋】

トウネズミモチ（モクセイ科イボタノキ属 *Ligustrum lucidum*）

和名：トウネズミモチ（唐鼠麴）

別名：トウネズ、リュウキュウネズミモチ

英名：glossy privet

シソ目 常緑広葉高木

原産地：中国

花言葉：静かな思い

花の色：白



← 写真-1 トウネズミモチ

撮影日：2019年02月24日

撮影場所：エヴォラ(ポルトガル)にて

撮影者：M さん

↘ 写真-2 トウネズミモチの葉

撮影日：2019年02月24日

撮影場所：エヴォラ(ポルトガル)にて

撮影者：M さん



← 写真-3 トウネズミモチの果実

撮影日：2019年02月24日

撮影場所：エヴォラ(ポルトガル)にて

撮影者：M さん



エヴォラ(ポルトガル)で昼食に立寄ったレストランの庭で見かけました。

和名のトウネズミモチは、「中国のネズミモチ」の意味です。

樹皮は灰色。若木はイボ状の皮目が多く、後に縦に裂け目ができ、老木になると、短冊状にはげ落ちます。

葉は対生で、葉身は卵形あるいは卵状楕円形、表面は濃緑色で光沢があり、表裏ともに無毛。縁は全縁、葉脈が透けて見えるのが特徴です。

実は紫黒色に熟し、名の通り鼠の糞のようになります。

明治初期に園芸樹として持ち込まれた外来種だそうです。生育旺盛で、乾燥や刈り込みにも強いので、都市の公園などの緑化木として、また大気汚染などにも強いので、道路の街路樹として多く植栽されてきました。野鳥が大量に実る果実を食べ、糞と一緒に種子を排出するため、あちこちに実生が発生する弊害が生じています。森林にも侵入し、在来のネズミモチと交雑・競合したり、他の樹木を被陰したりすることで、在来の生態系に悪影響を与える可能性があるため、外来生物法で「要注意外来生物」とされているそうです。

トウネズミモチは中国では「女貞」と呼び、熟した果実を採集して干したものを「女貞子」といい、煎じたり、あるいは焼酎などに付け込んで薬用酒として、病後の体力回復や虚弱体質の改善などの滋養薬とするそうです。